かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター「かならいん」における証拠採取について

性犯罪の証拠を医療機関で採取し、保存しておくことは、性犯罪の被害者への重要な支援です。県では、令和４年１０月から証拠採取等を開始していますが、医療機関は１か所のみで、平日日中に限られています。西村くにこは令和５年１２月の代表質問に引き続き、改めて「かならいん」における証拠採取等を行う医療機関の確保についての課題と今後の取り組みについて、質問しました。

知事答弁

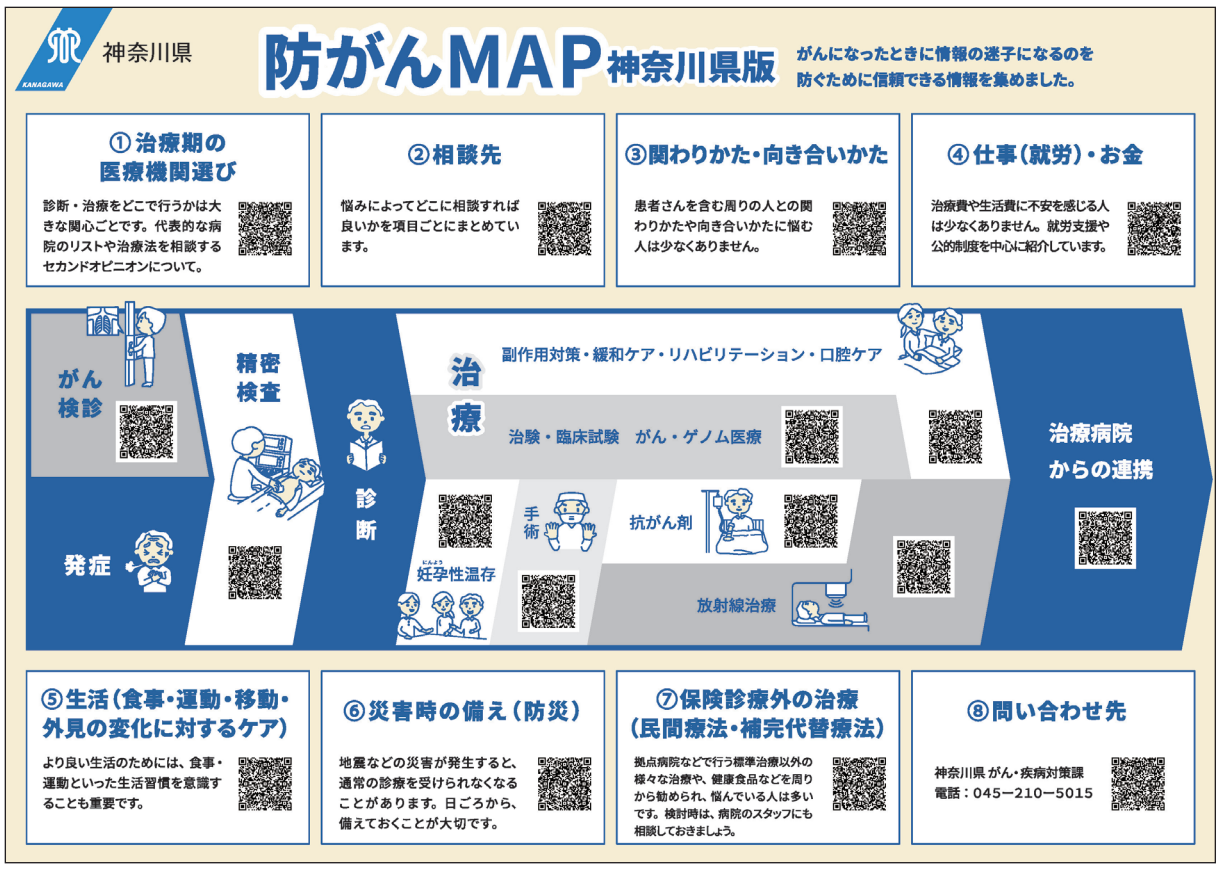
採取した検体の長期間の保管管理や、専門知識を有する性暴力対応看護師「ＳＡＮＥ(セイン)」の養成などの負担が課題となっていたが、今年度、県と警察が連携し、検体を保管し一括管理する超低温冷凍庫の整備や県内全域の医療機関を対象に受講者を募るなど「ＳＡＮＥ(セイン)」養成の拡充を図ることで、新たな医療機関から協力の申し出があった。引き続き医療機関の拡大を図っていく。



ＳＡＮＥ(性暴力対応看護師)：看護ケアに必要な性暴力に関連する心理・身体・社会及び法医学的な知識・技術・態度について、専門的な教育を受けた看護職（保健師･助産師･看護師)。ＳＡＮＥは、Sexual Assault Nurse Examiner の頭文字をとった言葉。

がん治療における県内拠点病院の連携

本県のがん治療体制として、都道府県がん診療連携拠点病院である県立がんセンター、小児がん拠点病院である県立こども医療センターのほか、２２か所の地域がん診療連携拠点病院があり、県が独自に指定する９か所の指定病院を加えると、３３の病院による治療体制を整備しています。しかし、各医療機関によって提供できる治療法が異なるため、患者にあった治療の適切な情報提供が必要です。西村くにこは、がん患者一人ひとりが最適な治療を受けられるよう、都道府県がん診療連携拠点病院である県立がんセンターをはじめ、県内の拠点病院が互いの強みを共有し、「つなぐ体制」を強化していくことへの見解を求めました。



知事答弁

県内の拠点病院等の最新の治療法の情報を集約し、患者や医療関係者への分かりやすい提供や、他の病院に「効果的につなぐ」取り組みについて、専門家や患者団体の意見を伺い、連携強化に取り組む。

防がんＭＡＰ神奈川県版

がん患者やその家族が、必要なときに正しい情報を入手できるツール「防がんＭＡＰ神奈川県版」を公開しています。